



山口県本部版
 NO270
 治安維持法犠牲者
 国家賠償要求同盟
 山口県本部
 〒754-0004
 山口市小郡金堀町
 21番の1
 林洋武方
 電話&FAX
 083(972)3987

冤罪をなくそう全国一斉宣伝

国民救援会山口県本部・山口支部が訴える
 (3月1日・山口市商店街で)

◆生活保護費の引き下げは違憲

2月22日、大阪地裁が住民勝訴の画期的判決

◆安保法制違憲訴訟、山口地裁で結審3月3日、
 判決は7月21日13時10分から

◆3・15市川正一碑前祭

光市光井鮎返りで11時から

◆国賠同盟山口支部は、国民救援会

山口支部、山口生健会と共同で事務所を開設しました。

住所は山口市旭通り1・2・3

◆国賠同盟の署名到達は2月28日現在
 個人522筆、団体55筆です。



国賠同盟事務所前で3月5日

同盟山口県本部 2021年度総会

4月25日(日)午後1時30分より

日本共産党山口県委員会2階会議室で開会

◎今年には記念講演はありません

宗教は自由でなければ思想の自由も保障されない

宗教は暴力をとまわらない限り自由でなければなりません。当然ながら宗教を信じないことも自由でなければなりません。宗教にはときに異常なと思われる言動や行動する団体があります。しかし、権力が介入するのは国民に対する暴力が伴う場合にかぎります。「オーム真理教」や「統一教会」など私たちは異常な暴力宗教団体に直面してきました。これらは暴力を前面に国民を不安におとし入れてきました。こうした団体は暴力と社会的不法を伴っており同時に「宗教の自由」を掲げて策動してきたことはつい最近のことでした。国民の間に「宗教団体」への警戒心も高まってきました。

とはいえ、私はそのことが宗教団体一般への思想への権力の介入を許すことに安易にならないように注意することが大切とと思っています。

二〇世紀は虐殺の世紀だった

宗教を歴史的にとらえなおしたいという思いも込めて、この二年ほど療養の時間に私はかなりの大著を読みました。加藤周一の「日本文学史序説」や長崎のカソリック信者の「片岡弥吉全集」、「前衛」誌に二年半連載されて六冊の単行本になった不破哲三の「スターリン秘史」(この本は今まで世界史の常識とされてきたスターリンの悪行を史実に基づいて各所で修正しており翻訳されて世界に紹介されれば、世界的にもおそらく大きな反響を呼ぶこととおもいます。)ユダヤ人でドイツからアメリカに亡命した政治哲学者ハンナ・アーレン

トの「全体主義の起源」、大木毅「独ソ戦絶滅戦争の惨劇」(岩波新書)などを再読しました。新書版を除けばいずれも大著です。二〇世紀をどのようにとらえるかいろいろあります。私は「虐殺の世紀だ」ととらえています。しかも宗教と思想が深く関わってその規模を巨大に拡大しました。ヒトラーの「人種主義」によるユダヤ人虐殺やスターリンの人命を考慮しない戦争の戦略・民族撃滅主義による虐殺、アメリカによる原子爆弾によるヒロシマ・ナガサキにおける大量殺害、日本のアジア諸国への侵略と人民の殺害など「巨大な虐殺」がくりかえされた世紀でした。「生命の浪費が行われた時代でした。権力者達は、人の命を数でしかあつかいませんでした。そこには、現在もまた中近東やアフリカなど世界各地で繰り返されていることに改めて怒りを感じます。

命を大切にす平和・自由・正義の二一世紀のために

二一世紀はこうした二〇世紀の惨劇を絶対に繰り返させてはならないと後世に伝えたいと思っています。私もその二〇世紀に生きた人間として命を大切にす平和と自由と正義のためにたたかたつもりでした。しかし、私の個人的な「つもり」は力不足でした。残された課題はあまりにも大きいと感じています。

私の雑文は一応これで終わります。最初考えていた構想とは変わってしまい、しりきれとんぼになってしまいました。弁解すればわたしの体調が昨年来崩れ、資料の調査ができなくなり(主として山口県立図書館ですが)それぞれのテーマが続けられなくなったからです。また、体調を回復したさいがんびりたいと思います。